

# ひがしの



## ベクトルをそろえて

校長 岩井 裕美

先日、授業参観と実に3年ぶりの参集型によるPTA総会が行われました。ご多用の中と存じますが、多くの保護者の皆様に対面にて、昨年度のPTA活動や会計報告ならびに、学校の経営方針の伝達や職員の紹介を行うことができました。ありがとうございました。

さて、その際に「ベクトルをそろえて」というお話をしました。地域の皆様にも知っていただきたく、お伝えさせていただきます。ベクトルとは、「大きさと向きを持つ量」を意味する言葉ですが、物事や考え方の向いている方向などを指し示す時にも使います。上記の「ベクトルをそろえて」、のくだりでは、保護者と学校がベクトルをそろえて子どもに向き合っていくことをお願いしました。恵那市は他市に先駆けてコミュニティスクールを進めていますので、地域の皆様も含め、子供と関わる大人がベクトルをそろえて子どもたちと接することができれば、子供たちは安心して健やかに成長するでしょう。そのベクトルの指す方向が、「みんなと力を合わせて生きる子」そして「一人でもたくましく生きられる子」に育てるということです。下図をご覧ください。例えば、「一人でも生きられる子」には、だれもやっていなくとも



「進んで」動ける力や、一人でもやり抜く、「強い心」が必要だと考えます。「みんなと生きられる子」には自分の役割に対する責任感や人に対する思いやりの心が必要です。東野小の子供たちは本当に素敵なのです。ただ、子供たちは自分たちの言動の値打ちにまだ

気付いていません。子供たちのよい言動を、これらのキーワードを使いながら、認め励ましていきたいと思えます。ぜひ、おうちや地域でも「ベクトルを揃えて」同じように声掛けをお願いします。自分からあいさつができた子に「進んであいさつができるね。えらいね。」骨身を惜しまず働ける子に「あなたは働き者だね。」下の子の面倒をよく見てくれるお兄ちゃんやお姉ちゃんに、「あなたは本当に小さい子に対する思いやりがあるね。私の自慢の子だよ。」のように。この積み重ねが子供たちの自信につながりひいてはみんなとそして一人でも生きられる子に成長すると信じます。